

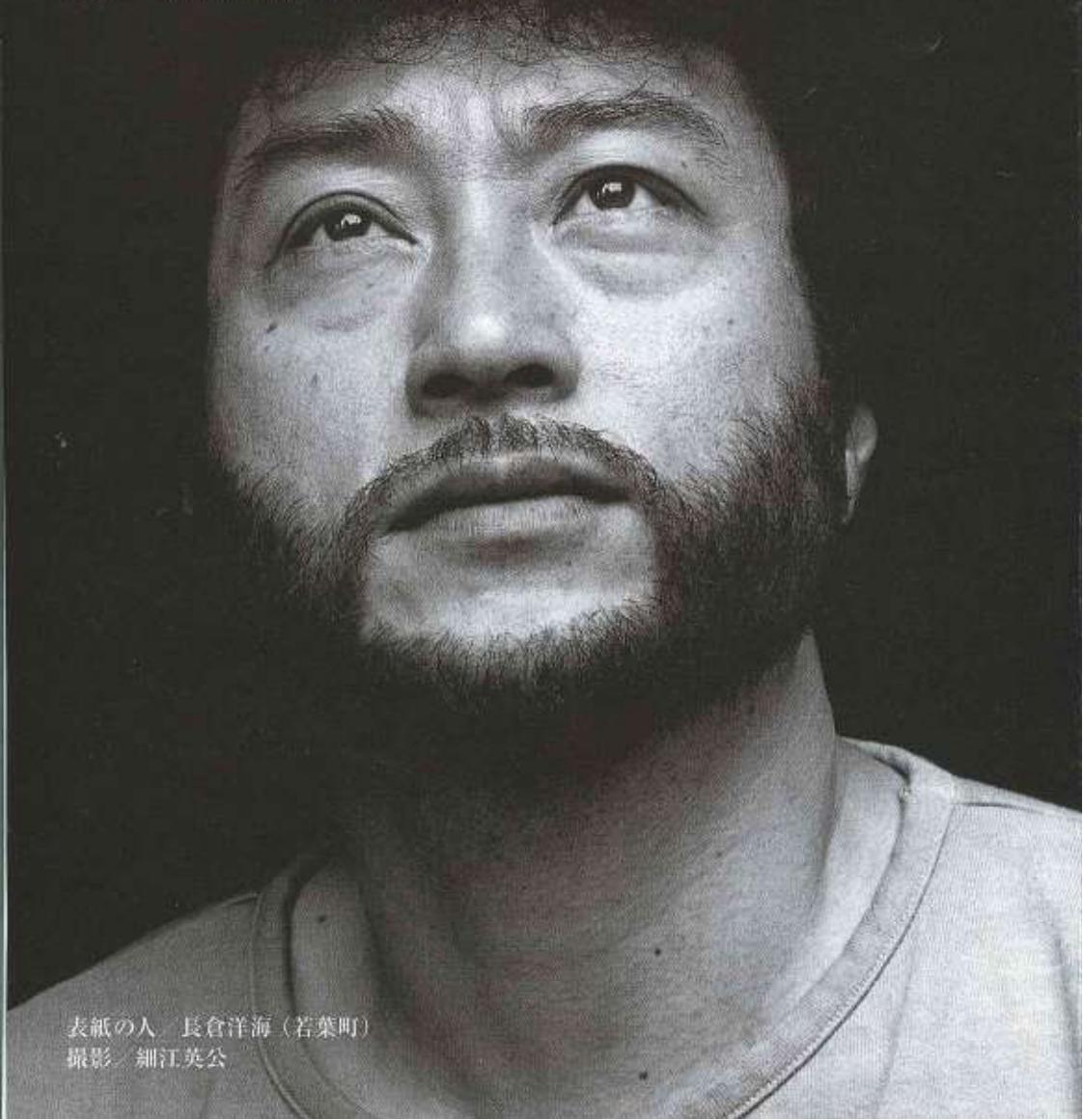
# えくでびあん

5

立川と語ろう 立川に生きよう

MAY 2001

EKUTEBIAN Vol.19 No.202



表紙の人 長倉洋海（若葉町）

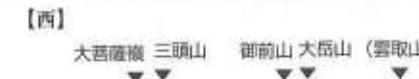
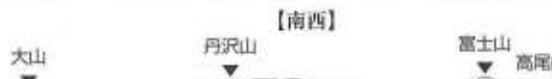
撮影 細江英公

立川から見える山 ④

# 高水山

(759 m)

案内人 守屋龍男

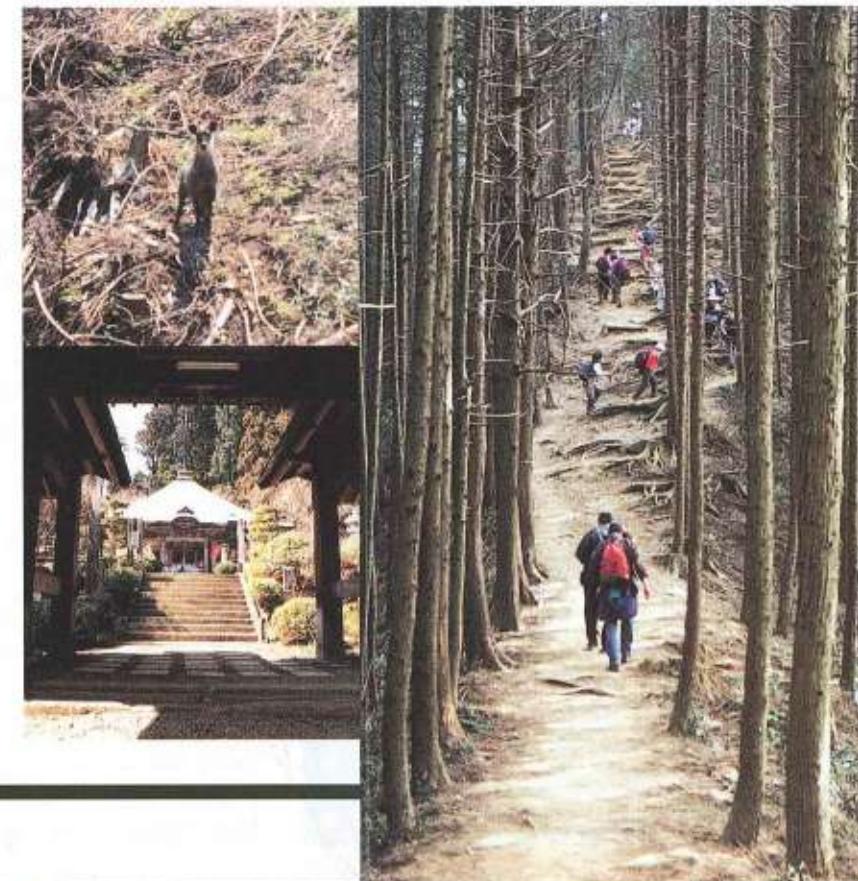


## 新緑に浸って歩く縦走路

青梅線の御嶽駅や軍畠駅の北方に聳えている山が高水山。古来から信仰の山として知られる。西側の岩茸石山、惣岳山を合わせて高水三山といい奥多摩登山入門コースとして人気がある。杉や檜の植林に自然林が交じり、渓流と滝、岩場など変化に富んだ奥多摩の山の魅力が凝縮されているからだろう。皇太子殿下も2回ほどこの山に登っておられる。

初夏の一日、白い雲と眩しい陽光に誘われるように高水三山縦走に出かけた。軍畠駅で下車、平溝川沿いの道を登山口に。緑に包まれた集落のあちこちに咲くノカンゾウやヤマツツジが美しい。登山口からはいきなりの急登。40分ほどで緩やかになりブナやモミの自然林に出る。高水山頂近くには古刹常福院が樹齢数百年の杉や檜の林の中にひっそり建っている。山頂からは南に御前山などを望む。

急坂を下り、新緑の林の中を過ぎると、岩がゴツゴツした急登の道になり一投足で岩茸石山頂。名前の通り、昔は岩茸がどっさりと採れたそうだ。ほぼ360度の展望がすばらしく気分も爽快。眺望を楽しみながらの昼食は実に美味しい。山頂から岩交じりの急坂を下り緩やかな尾根道から巨岩の間の道を這い上ると古社青渭神社が鎮座する惣岳山頂。杉の巨木が林立して眺望はない。ここから植林地の中の長い道を御嶽駅に下る。



### 行程

JR青梅線軍畠駅～40分～平溝集落周りの登山口～1時間～高水山～40分～岩茸石山～40分～惣岳山～1時間～御嶽駅。歩程約4時間。高水山から上成木集落下る車道や参拝道があり。歩程40分（昔はこの道が表参道だった）。また岩茸石山からは棒ノ折山へ歩程2時間10分、さらに2時間で埼玉県名栗温泉へ行ける。

奥多摩らしい風景を巡る縦走路はいつも登山者で賑わう。時には意外なところでカモシカなどの野生動物に出会うこともある。

### 私と高水三山

多くの山に登ってきましたが奥多摩は庭統きのような親しい存在。高水三山は気軽に駅から歩いて行ける上に季節ごとの変化があり、飽きません。

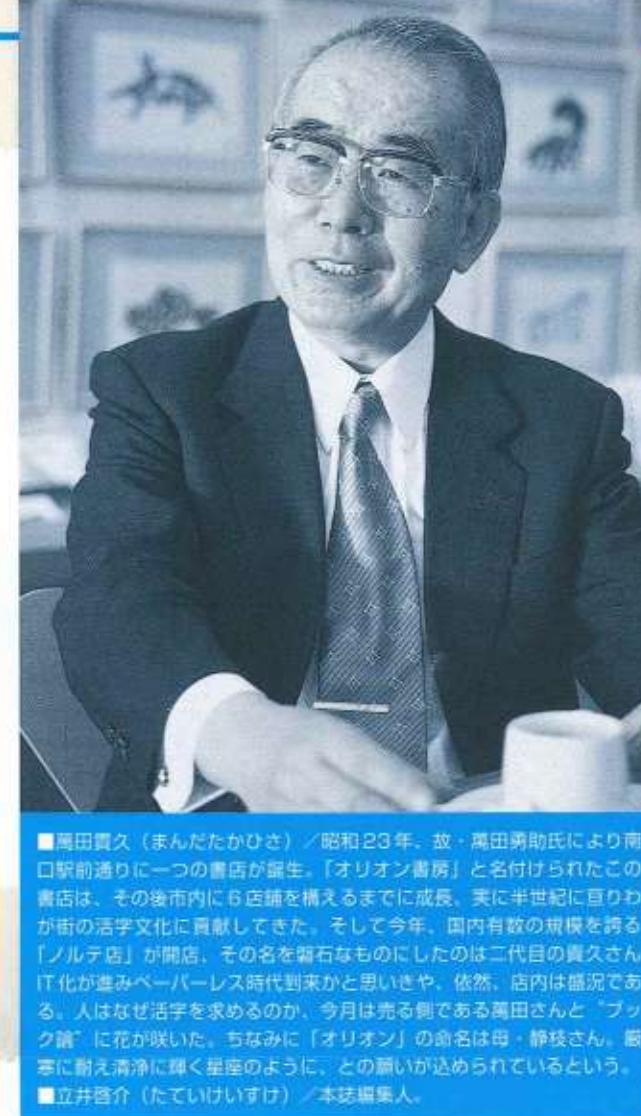
小関啓子さん（主婦・羽衣町）





# 書店は、知の邂逅の「演出家」たるべき。

万田商事(株)「オリオン書房」代表取締役社長  
萬田貴久さん



【質問】オリオン書房さんは、創業されたどのくらいになるんですか。萬田 昭和二十三年ですから、今年で五十二年ということになりますね。

【質問】そもそも、お父様(故・萬田勇助氏)が始められたわけでしょう?

【萬田】ええ、そうなんですが、親父は他の活動が忙しくてね。実質は母親(静枝さん)が始めたようなもんです。

【質問】あ、お母様が。

【質問】オリオンという店名もね、戦い時代を乗り越えていつまでも輝いていくよう、という願いを持って母が付けたんですよ。

【質問】そうだったんですね。いや、ロマンのあるいい名前だと前から思つてたんです。

【萬田】有難うございます。戦後の貧しい時代でしたから、なおさら夢のある名前にしたんだでしょうね。

■萬田貴久(まんだかひさ)／昭和23年、故・萬田勇助氏により南口駅前通りに一つの書店が誕生。「オリオン書房」と名付けられたこの書店は、その後市内にも店舗を構えるまでに成長。実に半世紀に亘りわが街の活字文化に貢献してきた。そして今年、国内有数の規模を誇る「ノルテ店」が開店、その名を刻むものにしたのは二代目の貴久さん。IT化が進みペーパーレス時代到来かと思いつや。依然、店内は盛況である。人はなぜ活字を求めるのか。今月は売る側である萬田さんと「ブック語」に花が咲いた。ちなみに「オリオン」の由来は母・静枝さん。彼女に耐え清淨に輝く星座のように、との願いが込められているという。

■立井質問(たいけいしき)／本誌編集人。

【質問】本当に驚いたんですが、なんでも多摩地区で最大だと。

【萬田】ええ、まあ多摩地区といいまして、実はワンフロアで八百坪という規模の書店は都内にもないんですよ。

【質問】じゃあ東京で一番ですか。ということは全国的に見ても……。

【質問】それはまたどうして? ところで、こちらのノルテ店、本当に大きくて驚いたんですが、なんでも多摩地区で最大だと。

【萬田】まず、コストの面が大きいんです。しかし一番の要因は、なんといっても本という商品が持つ独特の性質によるもの。そこで大きいところもありますが、書籍だけとなりますと、たぶん他のことはないでしょうね。

【質問】日本一ということになりますね。確かにコンピューター上の売買には冊数でいえば約五十万冊あります。

【萬田】フロアが跨がっている書店ですと、ここより大きいところもありますが、どのくらいの冊数を置かれているんですか。

【質問】どうだつたんですか。いや、ロマンの有名な前だと前から思つてたんです。

【萬田】有難うございます。戦後の貧しい時代でしたから、なおさら夢のある名前にしたんだでしょうね。

【質問】冊数でいいますと三十五万点、冊数でいえば約五十万冊あります。

【質問】うわ、五十万冊ですか……。いや、今日は萬田さんにぜひお訊ねしたいことがあります。今はコンピューターの時代といわれていて、猫も杓子も「IT、IT」ってやってますけども。

【萬田】(笑)。

【質問】ちょっと前に「ペーパーレス」なんて言葉があつて、紙の媒体はもう生き残れないなどと云っていた時期がありましたよね。

【萬田】私はどものように売る立場から云えれば、販売上のツールとしてIT化を目指すことは当然の流れなんです。これはもう時代の要請ですよね。やはりお客様が求めれる要望にいち早く応じるために、

【質問】あ、確かにそうですね。本と書籍はどちらかと思うけども忘れてはいけないですね。(笑)。やはり書店に足を運び、その場で手にとって表紙を眺めたり、目次を括つたりして本を選ぶ。本を売るということは、実はそういう点が重要だったんですね。

【萬田】ええ、ええ。

【質問】で、そうなるかと思いきや、こうしてオリオン書房さんのように大きな書店は出来、しかも人は集まつてくる。これは一体どういうことなんだろうかと。萬田 私どものように売る立場から云えれば、販売上のツールとしてIT化を目指すことは当然の流れなんです。これはもう時代の要請ですよね。やはりお客様が求められる要望にいち早く応じるために、

【質問】あ、確かにそうですね。本と書籍はどちらかと思うけども忘れてはいけないですね。

【萬田】おっしゃる通りです。店頭で本を選ぶ愉しみ、本の持つ温もりのようなのを忘れてはいけないんです。

【質問】選ぶ愉しみ、本の持つ温もりのようなのを忘れてはいけないんです。

【萬田】一方で萬田さん、先程こちらの在庫が五十万冊と伺いましたが、多ければ多いといふものでもない、といふ考え方

もあるでしょう。レストランに置き換えると、メニューが豊富過ぎて選びにくくなる。そういうことはありませんか。

【萬田】本というものは、専門書のような特殊なものを除けば、基本的に「多品種少量生産」なんです。余程のベストセラー以外では刷数も限られます。だから効率販売の点から見ると、要するに売れる本だけを並べれば済むことなんです。

【質問】ところがその一方で、先程も話に出了ました「選ぶ愉しみ」を提供することも重要なことです。すると品揃えを多くし、お客様の要望に応えやすくすることも必要になつてくる。

【質問】矛盾している要素を兼ねなくてはいけないわけですか。

【萬田】ええ。そこで私どもとしては、このノルテ店の場合、「ひとつのフロアに専門店が軒を並べる」という発想で計画を進めたんです。

【質問】あ、なるほど。各ジャンルごとに固めて全体を充実させると。そうなると今度は、対応してくれる店員さんの質

も問題になつてきますよね。客と接抗できるだけの知識と経験がないと。

【萬田】ええ、まったくおつしやる通りです。人材戦略ということになりますけれども。

【質問】これは本好きの一市民としての感想なんですが、駅ビルのルミネ店の従業員の方は素晴らしいですね。本というものがよく分かってる方が多い。

【萬田】有難うございます。(笑)。実はルミネ店は昭和五十七年の開店なんですが、全員二十代の従業員だけでスタートさせたんです。

【質問】へえ、若者だけで?

【萬田】ええ。やはりヴィヴィットな感性を持つものに任そそと。それが今、こうしてお詫びの言葉をいただけるのは本当に嬉しい限りです。どんな商売でもそうですが、やはりお客様が育ててくださっているんです。このノルテ店も、今度の開店のために他の店から従業員を集めることにはならないんですよ。

【質問】あ、じゃあわざわざ編成したわけですか。

【萬田】ええ、他業種の人材をスカウトし

たりしまして。今ウチは市内で七店舗あるんですが、それぞれの店がそれぞれの地域で、独自の文化というか、空気のよくなつた映像文化が台頭していますが、何といふか「受け身」的なものばかりが蔓延しているでしよう。

【萬田】読書は本来、能動的な作業ですかね。

【質問】私たちの仕事は、端的に云えば本との直接的な出会いをどう「演出」するかということだと考へてゐるんですね。時代の波を見ながら最新の販売技術も導入しつつ、やはり書店で本を探す、選ぶという愉しみをどう提供するか。それに尽るんじやないでしょうか。

【質問】テレビやビデオ、ゲームなどといった映像文化が台頭していますが、何をしているでしよう。

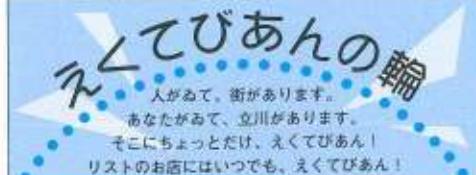
【萬田】こんなこと云うと古い人間だと思われますが(笑)、やはり文化の基本は活字、そう思います。それに、これは個人的な想いですが、やはり人間は孤独な時間を持つべきです。私は、読書の一番の魅力はそこだと思つてゐるのですが:

:(オリオン書房ノルテ店・ラウンジにて)

■萬田貴久(まんだかひさ)／昭和23年、故・萬田勇助氏により南口駅前通りに一つの書店が誕生。「オリオン書房」と名付けられたこの書店は、その後市内にも店舗を構えるまでに成長。実に半世紀に亘りわが街の活字文化に貢献してきた。そして今年、国内有数の規模を誇る「ノルテ店」が開店、その名を刻むものにしたのは二代目の貴久さん。IT化が進みペーパーレス時代到来かと思いつや。依然、店内は盛況である。人はなぜ活字を求めるのか。今月は売る側である萬田さんと「ブック語」に花が咲いた。ちなみに「オリオン」の由来は母・静枝さん。彼女に耐え清淨に輝く星座のように、との願いが込められているという。

■立井質問(たいけいしき)／本誌編集人。

キャフェ クリムト	瑞町2-5-1-2F 526-3030
さくら銀行立川支店	瑞町2-6-11 522-2151
Italian Cuisine サヴィニ	瑞町2-7-10 525-1682
Art & Coffee Room 新紀元	瑞町2-7-21-4F 528-6952
多摩中央信用金庫本店	瑞町2-8-28 526-1111
三上鰹節店	瑞町2-8-30 522-3259
旬彩懷石 若草茶屋	瑞町2-8-30 526-0010
フロム中武 1F受付	瑞町2-11-1-2F 524-7111
輸入文具ホワイトハウスフロム中武	瑞町2-11-2-4F 525-8558
ステンドグラス「ぱさーじゅ」フロム中武	瑞町2-11-2-4F 522-1941
スパゲティー専門店はしやフロム中武	瑞町2-11-2-4F 528-2338
立川リージェントホテル	瑞町2-11-7-2F 522-1133
バティスリー バーゼル	瑞町2-11-8-1F 523-3746
cafe バーゼル	瑞町2-11-B-2F 523-3746
Wine & Dining るもん	瑞町2-12-13 527-3022
ケンタッキーフライドチキン立川店	瑞町2-12-18 528-2636
住友銀行立川支店	瑞町2-13-1 522-6171
東京三菱銀行立川支店	瑞町2-13-3 524-4121
カフェ アバン	瑞町2-17-15-2F 527-4479
トボス立川店	瑞町2-18-18 525-0331



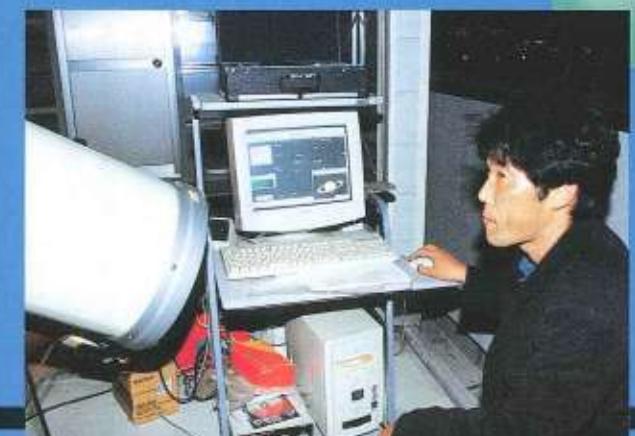
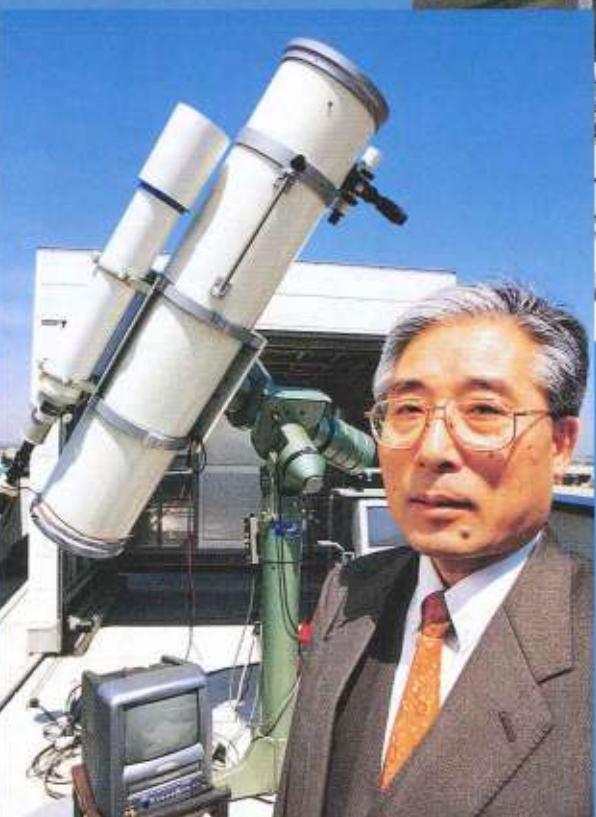
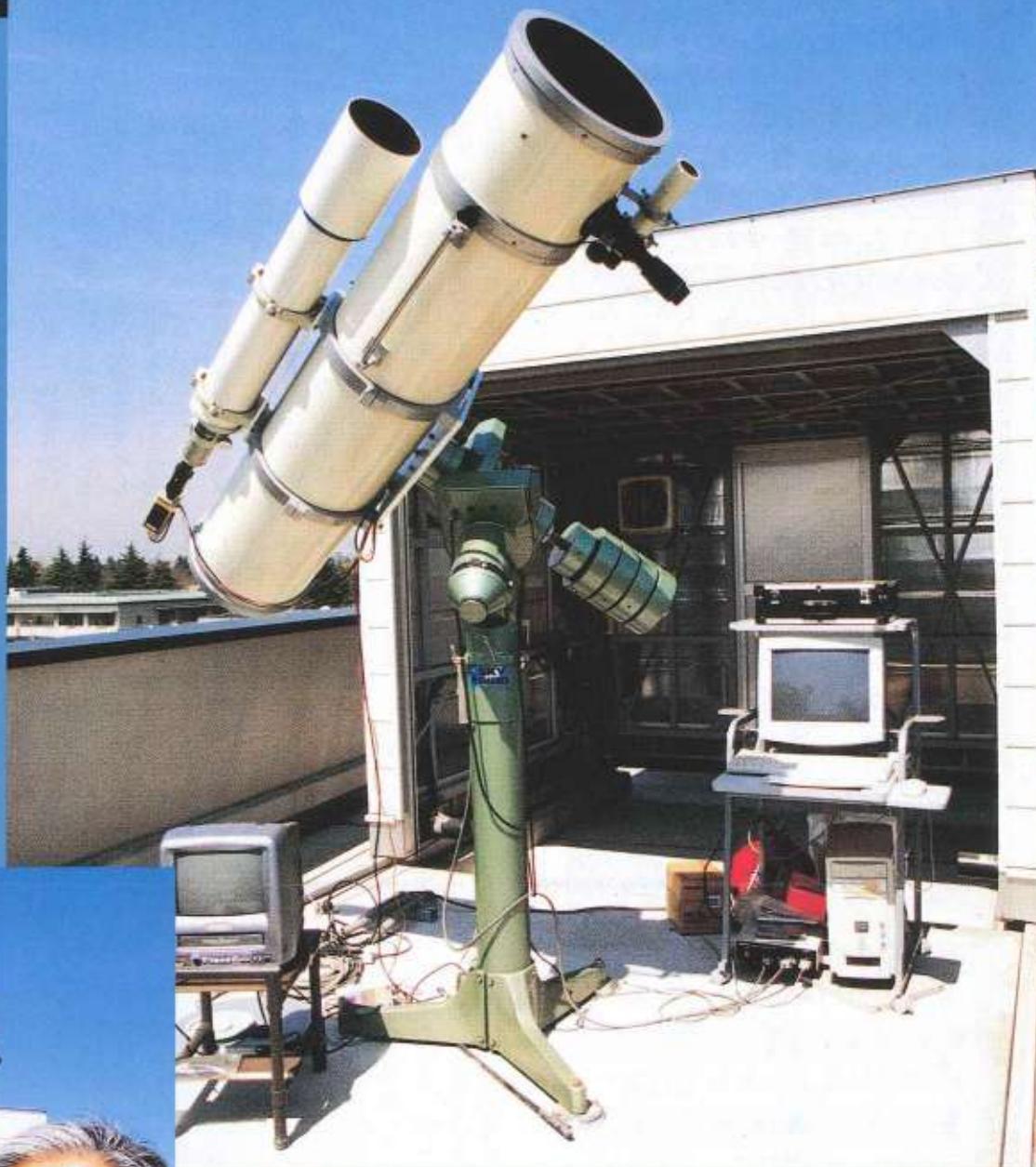
三井石油 フロンティア立川	瑞町2-19-9 527-3943
手打ちそば 開	瑞町2-25-3 525-1400
串やきと牛たんの店 JEAN	瑞町2-32-14 529-6210
三田花店 立川高島屋店	瑞町2-39-3-1F 526-4187
立川高島屋 サービスフロア	瑞町2-39-3-7F 525-2111
多摩画材(景品交換所)	高松町2-1-25 522-6031
丸助青果店	高松町2-4-18 522-3542
スーパー やなぎや	高松町2-5-17 522-4322
肉の専門店 伊勢屋	高松町2-5-20 524-2734
ケーキ&カフェ マリアン	高松町2-10-22 524-3912
米穀・食料品 横町屋	高松町2-11-23 522-2609
山梨中央銀行立川支店	高松町2-16-13 526-1571
レストラン 楓	高松町2-22-2 526-2276
cafe-resutaurant&bar TIP-TOP	高松町2-27-27 525-2030
書籍・雑誌 フレンド書房	高松町3-18-2 527-1565
HAIR MAKES たしろ	高松町3-26-16 525-2175
ふとんの 青木寝商	若葉町1-8-1 536-6833
美容室 リラ	若葉町1-11-1 536-3048
みふじサイクル	若葉町1-12-4 536-7166
紀の国屋 立川支店	若葉町1-13-2 536-1604

# 星をください。

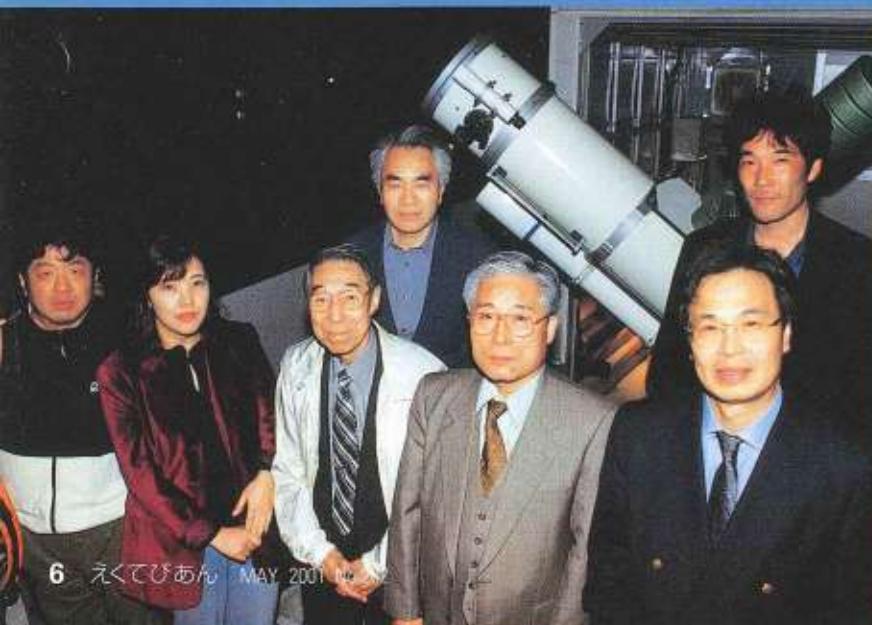
## 端功一さん(富士見町)の私設天文台「エコー天文館」

富士見町で印刷会社の会長を務める端功一さん(56)は知る人ぞ知る蘊蓄の人。なかでも天文学への造詣は深く、自身監修の専門書を自ら出版してしまうほど。きっかけは小学生の時、宿直の先生の望遠鏡で火星を観たこと。望遠鏡の中の火星は余りに小さく、がっかりしてしまった端少年。よし、いつかでっかい望遠鏡を手に入れ、思う存分星を観てやろうと、思い続けて40数年。ついに昨年、まるで大砲のような巨大望遠鏡を説えた“私設天文台”を完成させた。その名も「エコー天文館」。積年の夢を実現させた端さん、さっそく同好の士を募って同好会を結成。今夜も星を求め、その輝きに魅せられた人々の静かな感動が端さんを囲む。

最新鋭の装備を搭載した2基の望遠鏡、NTK 31センチニュートン(大)とカガハンドS-128。アマチュアの観測家としてこのシステムを導入しているのは国内でも数えるほど。まさにマニア重複の装備。



初心者からハイレベルのマニアまで、端さんの同好会は現在50名近くにのぼる。十数名のグループに分け、定期的に観測会を催している。練習版、修理を囲んでの“ホシ講義”もまた格別。「入会は随時受付中。初心者の方も気軽に遊びに来てほしい」(端さん)。



表紙の人 長倉洋海さん  
(若葉町)

立川が誇るフォト・ジャーナリスト。昭和27年生まれ。

通信社カメラマンを経て1980年よりフリーに。中東、アフリカ、中南米など世界の紛争地を訪れ、そこに生きる人々をレンズを通して見続けてきた。写真集に『サルバドル—救世主の国』『地を這うように』『獅子の大地』『ともだち』『コソボの少年』など。著書に『フォト・ジャーナリストの眼』など。第12回土門賞、『人間が好き—アマゾン先住民からの伝言』で産経児童出版文化賞を受賞。

(於・茶遊／撮影・緑江英公)

## 東風

歳時記に「春の雪」が載っているが、まさか桜が満開の頃に降らうとは思わなかった。友人が雪見酒と洒落ないかと誘ってきたが断った。この雪は酔いながら眺めるのは惜しいと感じたからである◆立川に地域誌と呼べるものがない、という声に応えて、えくてびあんを発行したのは17年前だが、羽衣町に「Wa! Ha! Hal」なる地域情報誌があることを聞き届けて、早速に取材に出掛けた◆勿論、編集・発行は羽衣町を愛する住民の皆さま、編集長は小澤静子さん。発刊し始めてからもう6年も経っているとは知らなかった。えくてびあんとしたことが、という思いでいっぱいである。表紙に人の顔をもってきているのも、どこか「えくてびあん思想」と似ていて親近感をおぼえた。一時「地方の時代」などという言葉が流行ったが、口先ばかりで足元から実践する人はそんなにいないものらしい◆羽衣町は錦町と同じように「国立」と隣接しているが、どこかに羽衣町独特の薫りをもつていて、この街の人々が「羽衣町」という時には、こゝろなしか胸を振っているように見える。そう思っていた矢先、立川治雄さんからご著書「しばさきあちこち」が届けられた◆普濟寺に 桜の英気 えくてびあん

### 第三次えくてびあん同人

編 著 大久保清志 / 小林康史 / 松山清純 /  
芳賀秋博 / 山田五郎  
デザイン 田中謙男 / AMNET DF  
写 真 小林洋治 / 中村伸 / 五木幸平

### えくてびあん 5月号

第19巻 通巻202号  
平成13年5月1日発行

発 行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市錦町2-17-5 杉田ビル3F

TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0085

編集人 立井啓介

発行人 濑尾勤三

印 刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## Topics トピックス

### 「ご近所」を より深く

立川市は16の町から成り立ち、それぞれに文化や歴史が存在する。ここでは独自の方法で地域の個性を見つめ、深めている人たちを御紹介しよう。情報誌の編集と単行本執筆、それぞれ形は異なるが、双方とも根底に「ご近所」への愛が脈打っている。

#### ■羽衣町商店街「はごろも Wa! Ha! Ha!」



羽衣町商店街振興組合(比留間正義理事長)が発行する地域情報誌「はごろも Wa! Ha! Ha!」は、今年で創刊6年。商店街を利用する人々を中心につかり定着、地域の活性化に役立っている。

町のシンボルカラーの紫があしらわれた表紙には地元の人々の顔が並び、内容も身近な話題を中心にとりあげた親しみやすい構成。温かい紙面づくりの秘密は、編集スタッフが全員商店街の“おかみさん”たちである。編集長を務める化粧品店「OZAWA」の小澤静子さんは「日頃、商店街を利用する人の多くは女性。同じ女性だからこそ伝わることもあるのでは」と語る。スタッフは編集活動のみならず、地域イベントの企画運営等も手掛け“はごろも文化”的振興に力を注ぐ。年4回の発行、新聞折込みの他、商店街の店頭で入手できる。

#### ■柴崎町・立川治雄氏著「しばさきあちこち」



今年、86歳を迎えた立川治雄さんが、このほど「しばさきあちこち」大正昭和初期の立川(けやき出版)を上梓した。これは生っ粹の柴崎生まれ、柴崎育ちである立川さんが知人

に薦められてまとめたもので、友人の多くが鬼籍に入った今、個人の思い出話でも後世の役に立つこともあるかと執筆に至った。「年寄の昔話として気軽に読んでもらえるよう」と、難解な時代考証は省かれているが、少年時代に経験した出来事を中心に、当時の柴崎地域の生活や慣習、風俗などにも詳しく触れており、史料としても貴重なものとなつた。当初は近隣に配るだけの少部の発行だったが、噂を聞いた市民からの問い合わせが相次ぎ、現在増刷も検討中だとか。今の子供たちにも読みでもらって地域の歴史を知るきっかけとなれば、と立川さんは語る。

### 真味百撰 カフェ シーマンズ



●錦町2-1-7 南閣ビル2F ●523-7407  
●11:00~23:00 ●月曜定休  
●カウンター7席、テーブル43席/  
パーティ時、80席

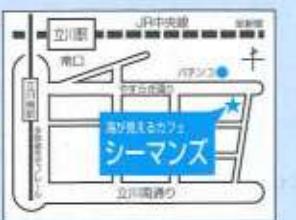
海の男が創った  
「海」の見えるカフェ  
接客の良さが光るお店

真味百撰

49



パーティメニュー (写真)  
メニュー、品数は予算に応じて  
ゆであげパスタ各種 860円  
パスタラーメン 860円



## ゴロさんの独断毒語

22

### 公欠

高校時代の話が続きましたので、ことの序で

にもう少しいたします。

私は生徒会の役員をするようになりました。

選挙のとき、貼ることが禁じられていた講堂の正面の壁に、大きなポスターを貼つてしまいま

した。朝礼の時に全校生徒の目に入る絶好の場所だったからです。叱られるのは分かっていました。案の定、叱られました。叱っているのはジャイさんこと小山清明先生。

ポスターには「K高校に生きる人」というキ

ヤツチフレーズがでかでかと書かれておりまし

た。ジャイさんは、——禁じられていることをやることは絶対にいけない。しかし、いま与えられた場所に「生きる」ということは大切なことだ。

ジャイさんが全校生徒の前でこう演説をしてくれたのが逆に効を奏したのか、見事当選いたしました。生徒会はクラブ活動の統括をするのが主な役目ですが、K高校では学校全体の方針を左右するくらいの力を持つていていた。授業そっちのけで全校生徒を集め「生徒集会」を開くこともありましたし、学校祭や運動会はすべて生徒の意志で進められていたのです。

「孤掌、鳴らし難し」という。孤掌とは、一つの手のひら、片手のこと。拍手をするときは、両手でなければ音を出すことが出来ない。よって、独りでは、何事も成し遂げることは難しく、相手があつてはじめて、物事が成就するのだということ。

「常樂我淨」じょうらくがじょう

放送時間 スカイバーエクTV 21時45分、マイ・テレビ 84ch

土曜 午前9時~9時15分  
午後7時15分~7時30分

再放送/火曜 午前9時~9時15分  
午後7時45分~8時

放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十五年  
眞如苑

錦町1-2-13 Tel. 527-0111(代)



みずほフィナンシャルグループ  
第一勧業銀行

デジタルえほん  
メモリーブックにどうぞ…



ミッキーや  
キティちゃんと  
一緒に…!!  
あなたの  
写真と名前が  
絵本の中に  
入ります。



PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING  
火廣社 042-527-1911  
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13  
FAX. 527-1949  
E-mail JDI05215@nifty.ne.jp

えくてびあん MAY 2001 No.202

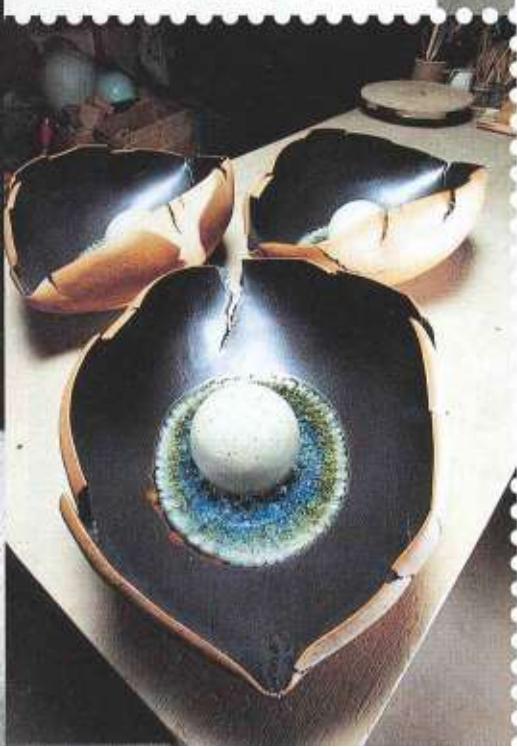
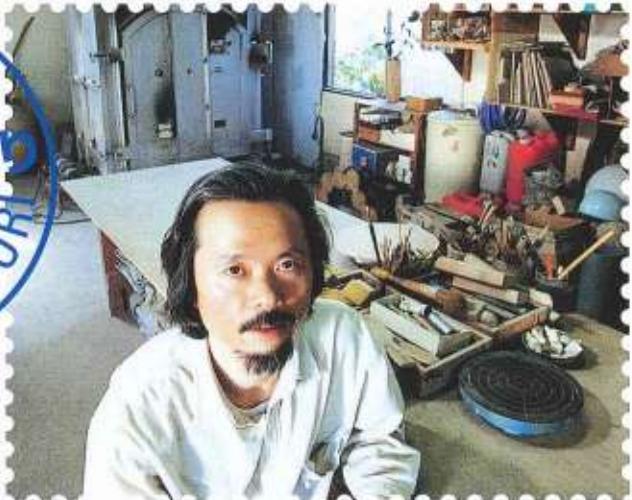
7

# 陶芸家・伊藤光則

(砂川町)



埼玉陶芸財団展教育長賞受賞「新たな命」



作品展を開くと、お客様に手にとって見るように薦めるんです。『触っていいですか?』って。国宝級のエラい作品ならともかく、気に入ったら誰だって触ってみたいでしょ。「藝術=触っちゃダメ」みたいな暗黙のルールがある。誰が決めた訳でもないんだけど、自分の場合、昔から決まりごとが苦手で、無意識のうちにそんな躊躇から離れようとしてるみたいです。

作品を創るとき、具体的なテーマはありません。ボンヤリしたものはあるんですが、手が勝手に動いてる。作品を見た人から感想を聞き、後になつて「ああ、自分はこんなことを考えてたのか」と気づくことも度々です。もともと口下手だし、作品の解説なんてこっぱずかしい(笑)。それぞれの感じ方、楽しみ方があっていいんだし、言葉で説明が出来るんならこんな仕事やつてないですかしね。

伊藤光則